

内閣情報部九・一一 情報第四號

◎日本の自重要望

同盟來電—不發表

ワシントン八日加藤特派員發

米國の全關心は歐洲戰爭に奪はれ日本の英佛軍支那撤退要請問題に付いては當時僅かに米紙がこれを報じたのみであつたが昨今ポツポツこれに關する記事が表はれ、米國政界も日本に於ては、獨り不可侵條約其他其の後の日本當局の態度により著しく好轉しつつある米國の對日態度も全く逆轉する可能性のあることを豫期せねばならぬとしてゐる、右は同時に日本が尙ドイツとの關係に於て清算し切れないものがあるこの疑を増さしめるものである、右は同時

右に付議者の觀るところでは、日本が歐洲の戰局よりして支那事變の解決を有利に圖らんとすることは米國としても汎米會議等に依りドイツ勢力を南米より排除せんとする下心がある所より觀て首肯し得ないが、日本が一舉に之を實現せんとして過激な方法を選ばず、獨り不可侵條約其他其の後の日本當局の態度により著しく好轉しつつある米國の對日態度も全く逆轉する可能性のあることを豫期せねばならぬとしてゐる、右は同時に日本が尙ドイツとの關係に於て清算し切れないものがあるこの疑を増さしめるものである、右は同時に日本が尙ドイツとの關係に於て清算し切れないものがあるこの疑を増さしめるものである、右は同時

りその結果現在米國の熾烈な反ヒトラー及び反獨感情が日本が中立を持すこの聲明にも拘らず日本に向けられる可能性なしとしない、日本は方法を選ぶに際し急がず且タクトフルであることが必要である日英會談を何故物にし様としないか米國に對し此際働きかける手はあるでないかなど、米政界では日本の自重を要望してゐる。

42

重慶UP新聞電報放送(六日)

(朝鮮總督府遞信局聽取)

一、重慶在留ポーランド人消息通はUPの特別會見で、ドイツがチエツコスロヴァキアを併合して歐洲に戦争の危険を起さんとしてゐた十二ヶ月も前からドイツには秘密の擾亂反戦運動があるさ次の如く語つた。この地下運動は必ずしも反ナチス的ではないが聯合せる列國とドイツが戦争することには斷然反對してゐる有力なドイツ人政治家及び軍官達によつて指導されてゐる。英佛がドイツに敵對すると威嚇してゐた十二ヶ月も前にドイツの反戦分子はヒトラーに對し餘り行き過ぎない様に忠告し、ヒトラーが開戦した場合には武力革命を計畫してゐた。入手せる内密の情報によるとドイツ軍後方の秘密反戦派はドイツの地位が十二ヶ月前よりも一層孤立的の見做さるゝ現在再び革命計畫を進めてゐるこのことである。若し軍事的クーデターが早急に起れば現下敵對行爲は豫想より遙かに早く終結するであらう。イギリス空軍がドイツの空に「宣傳空襲」を行ひ、イギリスは單にナチス政權の顛覆を企圖しをれることを強調するパンフレットを投下してゐる事實をドイツ内の反戦低流と直接に結びつけるべきである。

40